







採用案内



自衛官候補生、一般曹候補生の採用上限年齢が引き上げられました!

18歳以上27歳未満 → 18歳以上**33歳**未満

| 区分 | 試験等の情報 |
|-------------------|---|
| 自衛官候補生 | 基礎的教育訓練を経て、期間の定められた「任期制自衛官」に任官します。 【資格】 18歳以上 33歳未満 の方 【受付期間】 年間を通じ受付を行っています。 【採用試験日】 詳細は、最寄りの自衛隊地方協力本部にお問い合わせ下さい。 ※自衛官募集HPからインターネット応募できます。  詳細はこちらから |
| 幹部候補生 | 一般大学卒業者等を対象とし、将来の幹部自衛官を養成します。 【資格】 22歳以上26歳未満の方(院卒者等は28歳未満) 【受付期間】 2020年3月1日(日)～5月1日(金) 【1次試験日】 2020年5月9日(土)、10日(日) ※自衛官募集HPからインターネット応募できます。  詳細はこちらから |
| 一般曹候補生 (第1回) | 部隊の中核で活躍する「曹」となる自衛官を養成します。 【資格】 18歳以上 33歳未満 の方 【受付期間】 2020年3月1日(日)～5月15日(金) 【1次試験日】 2020年5月23日(土) ※自衛官募集HPからインターネット応募できます。  詳細はこちらから |
| 予備自衛官補 (一般・技能) | 社会人・学生等が教育訓練を受け「予備自衛官」に任命されます。 【資格】 一般 18歳以上 34歳未満 の方 技能 18歳以上53～55歳未満 ※保有する資格により年齢上限は異なります。 【受付期間】 2020年1月6日(月)～4月10日(金) 【1次試験日】 2020年4月18日(土)～22日(水) ※自衛官募集HPからインターネット応募できます。  詳細はこちらから |

ARMY 第88号 2020年春
令和2年3月23日
編集・発行/陸上幕僚監部 監理総務課広報室
表紙: 令和元年米国内における米海兵隊との共同訓練 (フイフン・フイスト 20)
https://www.mod.go.jp/gsd/

ARMY

ACTIVE RELIANCE MORAL YEARNING



No.88
SPRING 2020



PHOTO OF THE YEAR 2019

教育訓練
防衛協力・交流
最先任上級曹長
行事
募集・予備自衛官

隊員自主募集への協力をお願いします!

隊員自主募集情報により入隊等した成果に対し、表彰基準に基づき表彰されます。

| 賞詞 | 条件 | 授与記念章 |
|-----|--|---|
| 第3級 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 単年度で5名入隊等 ○ 2年連続4名入隊等 ○ 3年連続3名入隊等 ○ 累積で15名入隊等 |  第5号 |
| 第4級 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 単年度で3名入隊等 ○ 2年連続で2名入隊等 ○ 累積で10名入隊等 |  第9号 |
| 第5級 | 単年度で1名入隊等 |  第13号 |

防衛功労章も授与されます!



ご不明な点があれば、各部隊の隊員自主募集担当者へお問合せ下さい。

自衛官募集
ホームページ

<https://www.mod.go.jp/gsd/jjeikanbosyu/>



アクセスはこちら! →

自衛官募集コールセンター

守ろうみんなの国
0120 - 063792
(年中無休: 12時～20時)

携帯電話、
スマホからも
無料です。

自衛官募集





PHOTO OF THE YEAR
2019



「鉄牛とともに」

第2通信大隊

撮影者

2等陸曹 市場 大祐

【撮影状況】師団訓練検閲

審査員講評

シブイ…の一言に尽きる。まるで戦車のCMポスターを思わせる。そんなCMがあればの話やが、手前の主人公も「ミスター陸上自衛隊」のようなイケメン、その主人公の左目にキャッチライトが見えるところから補助光のスピードライトを同調させたか?しかもその控えめな光量が絶妙なのである。そしてよくぞここまでアップにした。主人公のポンチョが濡れているところから、この日は雨天と思われる。カメラマンにとって大敵の雨を見事味方につけた。これが晴天やと主人公の表情は真っ暗、背景の戦車は真っ白でトンでしまっていたことであろう。絞りもF4.0か5.6ぐらいか、背景が90式戦車の輪郭がハッキリし、どっちが主人公か分からず、散漫な写真に終わっていたであろう。

恐るべき遣い手である。(宮嶋茂樹)

作者が持つ写真の知識とテクニックを感じさせる、まさに「上手い」一枚です。無駄の無い構図、中望遠レンズで背景の90式戦車の姿をぼかし、手前の隊員の表情を浮き上がらせ、さらに弱い光量のストロボも使用されています。雨がそぼふる演習場で、これだけ計算された写真を撮影される技量を持って、次回も最優秀を狙ってください。期待しています。(福田正紀)

審査結果発表

恒例の写真コンテスト「PHOTO OF THE YEAR」も今年で19年目を迎えました。平成31年・令和元年の1年間に陸上自衛隊員が撮影し、投稿された写真約600点の中から、厳正な審査により、最優秀賞1点、優秀賞2点、奨励賞3点と、審査にあたっていただいた各カメラマンの特別賞4点を決定しました。

どの作品も、陸上自衛隊の「現在(いま)」を表す素晴らしい作品で、技術の高さと心意気が伝わってきます。自衛官だからこそ撮れた写真、ただの記録に留まらず訴えかけてくる写真の数々をご覧ください。

PHOTO OF THE YEAR
の趣旨

- 1 写真を通じて、隊員が陸上自衛隊に対する関心や理解を深め、隊員としての更なる誇りと自信の獲得に資するとともに、士気の高揚を図る。
- 2 写真を通じて、隊員家族の皆さまに活動のイメージをお伝えし、陸上自衛隊に対する信頼と協力の獲得に資する。
- 3 プロカメラマンの審査によって選ばれた作品を広く紹介することにより、隊員の写真技術の向上と意欲の増進を図る。

撮影者コメント

まず、数多くの素晴らしい写真の中から、拙作を選んで頂きとても光栄です。

審査に関わられた皆様、そして何より被写体になって頂いている隊員の皆様に深く感謝したいと思えます。私はいつも、写真には写せない事を少しでも伝えたいと考え写真を撮るように心懸けています。それはこの写真の様に土や雨の冷たさであったり、時には夏の草花の匂いであったり、隊員や子供達の笑い声であったり。

見て頂いた方々にそれらが少しでも伝わり、感じ取っていただければ嬉しいです。

そして、未来を担う子供達に自衛官のカッコ良さを伝えたいと思っています。休日、家ではおそらくソファでゴロゴロしているお父さんも知れませんが、忌野清志郎さんの「パパの歌」の様に泥や汗にまみれてもキラキラと輝くカッコイイ一面がある事を知ってもらい「うちの父さんはカッコイイ!」「自衛官になりたい!」と誇りや憧れを感じてくれたら嬉しいです。

最後に、今までご指導を頂いた先輩や同僚に感謝し、今後も第2師団写真馬鹿として、さらに技術を向上させ、より伝わる写真を目指して行こうと思います。





「車両出現、対処する！」



これまた、未恐ろしいテクニシャンである。作者の所属は対馬警備隊というからヤマメコ軍団にもかようにカメラを自在に操る手練りいたとは…。失礼ながら驚きである。この主人公である84RRの射手と装填手の複雑な動きとスピード感は低速シャッターと高速ズームでよくぞ十分に生かした。目標である画面中央の車両にピタリ照準を合わせているだけでも充分スゴいが、百点目指したいなら、84RR装填直前まで粘り、砲口内に車両を持ってこれれば言うことなしや。えっ？そんなアングルやと84RRやと分らんやぞ？そないことあるかえ。84RR砲腔内にはきれいなライフル切ったるやないか。その中央に目標が来た瞬間高速ズームアクションで周囲をブラして動きをつけるんや。しかし、この技は車両が止まってないと至難の技や。
いやいや。このままでも充分すばらしい。(宮嶋茂樹)

対馬警備隊
撮影者 1等陸曹 都留 亮二
【撮影状況】対馬警備隊普通科中隊訓練検閲

審査員講評

この被写体のプレ。巧妙な流し撮りにも通ずる“自分ズーム”と言ったらいいでしょうか。演習場でのリアルな隊員の方々の素早い動きがよく描写されていると感じられます。対戦車ロケットの筒内のライフルまではっきりと見えているのに、見る者と一緒に前進しながらザザッと草地に伏せるような感覚にさせる躍動感。欲を言えば空をもう少しだけ捨てて、もうほんの少しだけ隊員に近づいたらより上位に!?という想いです。こうしたプレ効果は例えばフォトショップのポカシコマンドの画像処理でも近い効果を出せますが、この作品のプレはそうしたデジタル的フィルターのプレとは違うように思います。この作品を撮った時、撮影者である都留1曹はどんな呼吸法で二人の隊員と動きを同調させてシャッターを切ったのでしょうか。被写体二人との信頼関係、撮り手自身も有能な攻め手的な体勢で同調出来たからこそではないでしょうか。対馬に行く機会があれば、ぜひお聞きしてみたいものです。(小見哲彦)



「北米の大地へ」



第1空挺団本部中隊
撮影者 2等陸曹 熊田 寛之
【撮影状況】アークティックオーロラ2019

審査員講評

今回は特に隊員の姿や装備の動き、射撃の迫力などに肉薄した作品が多かった。それゆえに、この作品は、たくさん写真の中でとても際立って見えました。アメリカの広大な大地に降りるいくつもの落下傘。壮大な大自然、そのスケール感を生かしており、見ていて非常に心地いい作品でした。例えば、広角レンズで、景色を広く切り取れば、どんな写真でも壮大に見えてくるわけではありません。この写真は、大地と山、空の割合が絶妙です。奥まで続く落下傘が、奥行きをさらに広く見せてくれています。「空の部分が多いのでは？」という意見もあるかもしれませんが、画面上部に他の落下傘と少し距離を置いた落下傘が良い位置にあり、私は「これで完璧！」と判断しました。(菊池雅之)

BGMに「空の神兵」が聴こえそうなワンシーンだが、これは富士の演習場にしては何か平坦な?と思うたらタイトルから納得、日米の共同訓練でアメリカ大陸であったか。背景の山々が抱く雪とその丘にたなびく雲をシンメトリー(対照)を成す、大地の花々、草萌える初夏の大地を緑をこれまたシンメトリーを成す空挺団のOD色の落下傘群、空挺団が舞い降りる有事であればもはやシャレにはならん非常事態やが、そこはアメリカといえども平時の状況下、何かホッとできるネイチャー作品である。(宮嶋茂樹)



「おぼろ月」

北部方面後方支援隊
第101通信直接支援隊
撮影者 3等陸曹 谷口 理一
【撮影状況】炊事競技会

審査員講評

糧食はいかなる時にも重要なものです。訓練中のスルドイ動きや砲撃等の派手さは比較的見る者の目を引く作品を作りやすいテーマ。しかしながら、この作品はそうした被写体を狙わずに粛々と糧食の炊事に精を出す隊員=縁の下の力持ちの静かなる力強さと立ちのぼる湯気越しの電灯をおぼろ月に例えた、ある意味「日本の自衛隊らしい」作品です。大きな容器の質感、大きなしゃもじに付いたお米のつぶつぶ。真剣な眼差しで炊事に集中している隊員の表情もとても良かった。もしも水蒸気が無かったら、電灯の光が露出バランスを狂わせて人物や容器がもっと暗くなっていたかもしれません。気温と蒸気の兼ね合い(季節)も、粋な発想の作者に味方してくれたかのように。過酷な訓練時の食事のみならず、被災地で自衛隊の暖かいご飯を食べた方々にも心に残りそうな作品と感じました。画面右手前の大手ぬぐいだけ、ちょっと逃がせたら一層良かったですね。(小見哲彦)

思わず唖ってしまいそうな「ニクイ」1枚ですね。無駄の無い縦位置構図で撮影されているのは、体育館と思われる室内での炊飯の一場面。それほど明るく無い状況下、あえてストロボなどの照明を使わず、その場の自然光で撮影し、現場の臨場感をうまく表現されています。被写体のベテラン2曹が大きなしゃもじで、炊き上がった飯を豪快にほぐす様子も流いの一言です。立ち上がる旨そうな湯気で霞む水銀燈を、「おぼろ月」に見立てるタイトルセンスもお見事です。(福田正紀)



「水路潜入」

第13普通科連隊本部管理中隊
撮影者 3等陸曹 小川 峻一
【撮影状況】レンジャー助教訓練



審査員講評

このようなシーンを撮影する場合、被写体を画面の真ん中に置きたくなってしまいます。ですが、この作品はメインとなるボートを画面の左側に寄せ、右側に後続のボートをみせることで、複数のレンジャー隊員にて、水路潜入というミッションを行っている様子を表現しています。あまり説明的でなく、それでいて、見ている人に感じ取ってもらう要素が多く、なかなか面白い作品となっています。改良点を挙げるとすると、隊員たちにもう少し表情があると良かったです。どんな緊迫した場においても、常に人間は強張った顔をしているかと言えばそうではないですね。こういう時はなるべく多くのシャッターを切って、一瞬の表情の変化を逃がさないようにするのも手です。(菊池雅之)

水面を力強く、それでいて静かに進むボートは偵察・潜入活動訓練の1シーンでしょうか。オールから落ちる水滴から音を意識しているのが分かります。明るい薄曇りの天候のおかげでドローンで撮影した隊員達の表情も暗くつぶれずによく分かります。露出が良好です。カメラアングルが水面からあまり離れていないところから、先行するボートから撮影しているのかもしれませんが、望遠効果がよく出ているので、位置取りの点でもう少しだけ左に移動して撮っていたら後続のボートがもう少し良い位置に来ていたように推測されます。理由は左手前の隊員のヘルメットの明るい部分と背景の明るい緑が外れる可能性があった点と後続艇との位置関係がもっと詰まって、絵柄がより引き締まったかもしれません。偵察部隊としては偽装したいところですが、写真としてはこの場合背景との分離が大事。水面上で、仮にボート上等では自由が効きにくいですが落水のリスクもありますが、画面左手のオールが画面切れしてしまっているのは少し惜しまれます。全体が良い出来なので、位置関係の持って行き方など工夫いただき、次作に大いに期待しています。(小見哲彦)



「ラストスパート」

第2普通科連隊本部管理中隊
 撮影者 2等陸曹 飯田 将大

【撮影状況】連隊スキー競技会



審査員講評

写真から気迫を感じます。タイトルから察するに、撮影者は、スキー競技会において間もなくゴールを切る、そんな瞬間を切り取ったでしょう。先頭の隊員の表情から、自ら気合を入れ直し、仲間を鼓舞して、ゴールを目指す緊迫感を感じます。その後方の隊員の苦悶の表情から、ゴールまでの道のりの厳しさが伝わって来ます。ドラマチックな一瞬を捉えた見事な作品です。余計な情報が一切なく、背景と隊員の配置などフレーミングが安定しているので、見る側は、素直に被写体へと感情移入ができます。(菊池雅之)



「これも青春」

第13旅団司令部付隊
 撮影者 2等陸曹 森 敏郎

【撮影状況】旅団集合教育レンジャー



審査員講評

レンジャー旗を先頭に駐屯地内を走るレンジャー学生達。ワイドレンズで後ろ向きに走りながら、補助光としてストロボを使用されています。その効果が十分あり、少々苦しい表情の学生と涼しい顔の助教の表情がよく描写されています。フォトコン応募作品の定番とも言える作品ですが、構図、桜の背景、被写体の表情など全てがここまで気持ち良く表現された作品は記憶にありません。作品から感じられる清々しさが、まさに「青春」なのだと感じました。(福田正紀)



「闇と立ちはだかる物」

第1師団司令部付隊
 撮影者 3等陸曹 佐藤 祐也

【撮影状況】台風15号災害派遣

審査員講評

昨年の房総半島の台風災害、木々が根こそぎ山肌から引っこ抜かれたような惨状でした。出口を塞がれた現地の人々の心境をシャドーを完全につぶしたトンネル内部で表現したかのような写真ですね。しかしながら、倒れた木々の向こう側には陸上自衛隊の重機が障害物を何とかしようとしている…。私自身も館山や鋸南町である程度片付いた後ですが、まだ残る大きな倒木を今年になっても沢山見ましたが、当時はまったく、そんなもんじゃなかったことでしょう。一般の人間から見たら「一体どうしたら良いんだ?」という状況を打開してゆく(来る)力が、この作品ではトンネルの先に見えるのです。ただ、雑誌かポスターのように空きスペースに文字を入れる指示があれば黒いスペースが有効なのですが、先述の重機が存在をもう少し大きく見せたら?と思うとトンネル先の部分をもう少し大きく撮っても良かったかもしれません。でも、やっぱり私も引いて撮るかな?(小見哲彦)



「静寂の轟音」

第7施設大隊
 撮影者 2等陸曹 菅井 信吾

【撮影状況】大隊訓練検閲



審査員講評

見事な構図である。ここはオーソドックスにシンメトリー(左右対称)に切り取って成功した。タイトルもいい。松尾芭蕉の「古池のかわず」を思い起こさせる。戦車橋の上に取り残された落ち葉もワビサビの世界を醸しだしている。いや、むしろ「モーゼの十戒」を見ているような宗教感さえ漂う大作である。この静寂から轟音とともに現れたのが、ガンダムでもゴジラでもましてや戦車でもない91式戦車橋というのもシブい。陸上自衛隊員ですらめったに見えない激レアシーンだが、手前の仁王立ちした隊員もいい味だしているばかりか、これまたシンメトリーというのもスゴい。(宮嶋茂樹)

審査員総評

■ 写真家：菊池 雅之氏

今回も大いに悩みました。すべての作品について、時間をかけて見ようと決め、1日に見る枚数を定め、数日にわたり選考を行いました。そうすると最初に見た写真の印象が薄くなりますので、改めて最後、すべてに目を通し、不公平にならないよう努力しました。本年度もみなさん納得のいく結果になったのではないのでしょうか。

振り返ってみますと、最優秀賞をはじめ、まるで映画のワンシーンのような写真が多かったような気がします。それは、写真を見てくれる人に自分が何を伝えたいかが明確であればこそ、できる技です。

度々「上手い写真とは、どんな写真ですか?」という質問をされます。みなさんの場合、写真を見せる相手に伝わりやすい写真、となるのかもしれませんが。その相手とは、自分の上司ではなく、国民です。国民一人一人が自衛隊を正しく理解する一助となるような写真である必要があると思います。ファインダーの向こうに被写体を捉えるのは当然ながら、その奥にいる「写真を見てくれる人」もイメージしながら撮る事も大事だと私は考えます。



「被りよし!」
帽子の位置を直している隊員の目が良いですね。見ているこちらも姿勢を正してしま、そんな作品です。



「レンジャー!」
被写体により、写真が動いているように見ることがあります。被写体の良い表情を見つけてくれました。



「マッドスプラッシュ」
疾走するオートバイ。スローシャッターが泥水の飛沫、スピード感を見事表現してくれました。

■ 写真家：福田 正紀氏

今年の応募作品を拝見し、最初の感想を言えば正直なところ少々不調な年かなと思いましたが、2回目3回目と見直してみると「曲者」とも言える作品が隠れていて、選ぶ側からすると面白いフォトコンテストだ。個人的に感じた事は、北部方面隊の各部隊からの応募作品のレベルの高さです。ベテラン隊員から新人への技能の継承なども、上手くやられている様に感じました。特に奨励賞の「おぼろ月」には、まさに一本とられた!!という感じです。

訓練やイベント以外にも、陸上自衛隊のそこかしこに写すべき被写体がある良い例ですね。

来年は北方以外の皆様の奮起を期待しています。

「砂塵舞う」

降着場にまさに着陸せんとするUH-1J、ハンドシグナルを送る誘導員を事前に縦位置の構図で上手くまとめました。回転翼機の撮影では、あまり高速のシャッター速度を使わず、ローターをブラした方が良い、と言われますが時と場合によると思います。この作品は速いシャッターでローターが止まっていますが、止まったローターの位置が良く、構図が引き締まって見えますしブレのないシャープな写真に仕上がりました。



「家族の絆」
いい場面ですね、まさにタイトル通りの状況です。この場面はどのくらいのカットを撮影されているのでしょうか?ちなみに週刊誌のカメラマンの私がこの場に遭遇したら、引き、寄り、横、縦と20カット以上撮影していると思います。拝見した写真の前後に、まだより良い瞬間があるのでは無いか、と感じさせる作品です。自分ならばワイドで寄って、縦位置の構図で決めたいと考えました。

「祝・令和」

礼砲射撃の瞬間ですが、この1枚の価値は通常の礼砲射撃の写真とはわけが違います。「即位礼正殿の儀」本番当日、北の丸公園での撮影です。撮影者は確実にこの写真を撮影しなければいけない、と言う重圧の下で21発の射撃を撮影したのです。撮影後に確認して、撮影に成功したことを確認され、さぞかし「ホッと」されたことでしょう。



■ 写真家：小見 哲彦氏

今年のフォト・オブ・ザ・イヤーも良作が非常に多く、お預かりしたデータの中から心を鬼にして減算する過程で大いに悩みました。上位選抜の作品以外にも、ここをもうちょっとだけこうすれば的な作品も大変多く何度か入れ替えをしておいたのですが、昨年と比べて構図の詰めが甘くなっていましたし、砲撃シーンでは背景と砲炎との明暗も考えたであろう作品やスピード感溢れる流し撮りは車両同様、人物にも良作があった。

ここに上げた3作では、「離脱せよ!」においては雪の中で砲塔を後ろに向けて警戒しつつも緊迫した離脱シーンをシャープに捉えており、装輪車の機動性を感じさせられました。

また、戦闘車両繋がりで話を進めると「昭和の名車」ではまさしく昭和の時代から日本を守って来たナナヨン3台を良い位置関係で絵作りにしているのが印象的でした。様々な昔の映画等でも、この戦車を知らない人はいないでしょうし、この写真も今しか撮れないかもしれません。レンズの絞りを開けて背景をボカし過ぎなかったのも、この作品では74式が3台続いていることが要点と思われるのでこのセッティングで正解だったのだと思います。強さの象徴の描写とは変わり、一般の人達との触れ合いの絵も良作が多かったと思います。

「練度良好!」の朗らかな女性隊員の暖かみ。これも国民を守る象徴なのでしょう。真剣に手当ての練習をする右側の少年の眼差しは、訓練中の隊員と全く同じ目をしてしています。この目にもピントが合うよう、撮影時にフォーカスの理想位置を判断して絞りを思い切り絞ってみたらどうだったのでしょうか? そんな様々な状況判断が進むと、明るく朗らかな写真も部隊訓練中の激しくイケテル写真も、さらに「練度良好!」になるものと思えます。来年度のフォト・オブ・ザ・イヤーも、大いに楽しみにしております。



「昭和の名車」



「練度良好!!」



「離脱せよ!」

■ 写真家：宮嶋 茂樹氏

今年も悩ましてくれた。年々カメラの性能も進歩しると同時に諸君らの技術の向上も著しく我々も喜ばしい限りである。さて、今年も名作揃いであったが、スローシャッターやズームアクション等を駆使した動きのあるスピード感溢れる作品が目立った。また、戦車や火砲の射撃もさることながら、それを扱う、また、そのまわりの諸君、自衛官ら人物を主役とした作品のレベルも格段に向上したと見える。それらは、時にほほえましく、ときには涙ぐましい、勇くさい、いや、人間くさい血の通った作品である。しかし、そんな諸君らの技術向上や才能への驕りたかぶりは、自衛官としてもカメラマンとしても厳に慎むは言うまでもない。今年もその腕を自身はもちろん、お国のため、国民のため、ますます磨くことに精進していただきたい。



「野獣」

スゴイ!迷彩パンツの柄から、相手は米海兵隊の猛者や。それよりでかいのが我が陸上自衛隊にもあったとは…。そや、戦いには武器の優劣、物量も大事やが気合も重要や。しかし、こんな戦いなら大歓迎のほほえましい作品や。



「俺には・・・(出来すぎた孫だ)」

タイトルをもっと工夫してもらいたい。私ならこう付ける。「ワシには出来すぎた孫ぢや」こっちの方が人間くさくていいでしょ?あとは背景の家族がうるさい。もっとアップにしてトリミングしたほうがベターでしょう。

「出航」

これ、防衛省がチャーターしている「はくほう」でしょう。現在、新型コロナウイルスが蔓延したクルーズ船支援のため、その向かいで停泊して陸海空隊員の安らぎの場となっている。そんな有事に備えるため、平時の訓練を疎かにする訳にはいかないのである。それでも父や夫としばしの別れを惜む母の背中からその絆が見える。惜むらくは下部の黄色の車止めがうるさいのでトリミングした方がベターです。



日米共同方面隊指揮所演習 (YS-77: ヤマサクラ)



| YS-77 | |
|-------|-------------------------------------|
| 時 期 | 令和元年12月3日～16日 |
| 場 所 | 朝霞駐屯地、健軍駐屯地等 |
| 備 考 | 共同して作戦を実施する場合における方面隊の指揮幕僚活動に係る能力を向上 |

- 【東部方面隊】
1 日米共同戦闘予行
2 日米両指揮官
3 日米調整会議
4 兵站ミーティング
 【西部方面隊】
5 日米共同作戦会議における日米両指揮官
6 幕僚調整



令和元年度国内における米海兵隊との実動訓練 (フォレストライト) FOREST LIGHT

FOREST LIGHT (MA)

| フォレストライト (MA) | |
|---------------|---|
| 時 期 | 令和元年12月1日～13日 |
| 場 所 | あいば野演習場、国分台演習場及び日本原演習場 |
| 参加部隊 | ○ 陸上自衛隊 第8普通科連隊基幹 ○ 米海兵隊 第3海兵師団第4海兵連隊等 |
| 備 考 | 日米航空機による長距離機動等、迅速な機動展開を重視する複数の演習場を使用 |



1 MV-22 (オスプレイ) から展開する部隊 **2** 現地における日米調整 **3** 日米交流 **4** 記念品交換

FOREST LIGHT (WA)

| フォレストライト (WA) | |
|---------------|--|
| 時 期 | 令和2年1月18日～30日 |
| 場 所 | 大矢野原演習場及び霧島演習場 |
| 参加部隊 | ○ 陸上自衛隊 第12普通科連隊基幹 ○ 米海兵隊 第31海兵機動展開隊等 |
| 備 考 | 島嶼部に対する攻撃への対応を重視 |



1 MV-22 (オスプレイ) を使用した空中機動訓練 **2** 現地における日米調整 **3** 記念品交換 **4** 文化交流

米国における米陸軍との実動訓練

(CTC: コンバット・トレーニング・センター20)



米国ルイジアナ州において2週間にわたる一連の状況下で米陸軍と共に訓練を実施しました。

| コンバット・トレーニング・センター20 | |
|---------------------|---|
| 時 期 | 令和2年1月22日～2月8日 |
| 場 所 | 米国ルイジアナ州フォート・ポーク (JRTC: ジョイント・レディネス・トレーニング・センター) |
| 参加部隊 | ○ 陸上自衛隊: 第39普通科連隊基幹 ○ 米 陸 軍: アラスカ陸軍第4-25歩兵旅団戦闘団 |
| 備 考 | 実戦を模擬した環境下において、2週間にわたる一連の連続状況下で連隊規模の訓練 |



1 建物を掃討する部隊 2 訓練準備 3 警戒中の隊員 4 日米共同防護 5 移動中の部隊 6 日米記念撮影 7 訓練終了後の研究会

国内における米海兵隊との実動訓練

(ノーザンヴァイパー)



国内における米海兵隊との協同訓練としては過去最大規模の日米両部隊による訓練を実施しました。

| ノーザン・ヴァイパー | |
|------------|--|
| 時 期 | 令和2年1月22日～2月8日 |
| 場 所 | 北海道大演習場、矢臼別演習場等 |
| 参加部隊 | ○ 陸上自衛隊: 第4普通科連隊、第5特科隊等 ○ 米 海 兵 隊: 第3海兵師団第4海兵連隊等 |
| 備 考 | 北海道の良好な訓練基盤を活用し、各種地形・気象下における空地連携による日米共同かつ諸職種協同の訓練及び実弾射撃を重視 |



1 MV-22 (オスプレイ) から展開する陸自隊員 2 訓練開始式 (勝鬨をする隊員) 3 日米砲兵部隊による射撃 (上段: 99HSP (日)、下段: HIMARS (米))
4 生存自活訓練 5 作戦会議 6 攻撃前進 7 日米部隊長による調整



令和元年度米国における 米海兵隊との実動訓練 IRON FIST(アイアン・フィスト20)

1

| アイアン・フィスト20 | |
|-------------|---|
| 時期 | 令和2年1月5日～2月27日 |
| 場所 | 米国カリフォルニア州キャンプ・ペンドルトン |
| 参加部隊 | ○ 陸上自衛隊：水陸機動団第2水陸機動連隊基幹 ○ 米海兵隊：第15海兵機動展開隊等 |
| 備考 | 米国の良好な訓練基盤を活用した水陸両用作戦及びこれに引き続く陸上戦闘までの一連の行動を訓練 |



1 米海軍艦船を背に上陸する第2水陸機動連隊 2 ボートによる共同上陸 3 火力を誘導する日米の隊員 4 四周を警戒しつつ前進する隊員
5 水陸両用車を誘導する普通科隊員 6 共同研究会 7 日米交流

第7師団総合戦闘射撃訓練



1 射撃をする90式戦車 2 投射する92式地雷原処理車
3 援護射撃のため下車展開する普通科隊員
4 損害を受けた戦車を回収する90式戦車回収車



第7師団(師団長 前田陸将)は、12月9日(月)～12月13日(金)までの間、北海道大演習場において、令和元年度総合戦闘射撃訓練を実施しました。

本訓練は、増強戦車(普通科)連隊の各級指揮官の戦闘指揮能力及び諸職種協同の火力を組織化し得る能力の向上を図ることを目的とし、第11普通科連隊及び第73戦車連隊を基幹部隊として実施しました。

今年度は、障害処理時における直射火力及び砲迫火力による援護態勢の確立、間隔射撃による攻撃前進、偵察部隊からの情報や偵察隊員及び第一線小隊長による実砲弾の観測や弾着を誘導し、情報と火力の連携を図ることにより、火力を組織化し、その戦闘結果を基に状況に応じた部隊運用を行うなど、総合戦闘力を最大限に発揮出来る場を設定しました。

各部隊は一連の状況下において、厳しい状況を克服し、実戦的・実際の場において弾先で戦いに勝つべく練度を向上させるとともに、それぞれ任務を完遂した。

警察との共同訓練(第9特科連隊)



1 訓練開式 2 緊急輸送訓練 3 情報共有を密にする隊員 4 訓練後の意見交換、認識統一

岩手駐屯地は2月7日、駐屯地において「岩手県警察との共同訓練」を実施しました。岩手県警警備課長、9特連3大隊長を統裁官として、岩手県警から約30名、第9特科連隊から約50名の隊員が参加、重火器など強力な殺傷力を持つ武器を所持した武装工作員が国内へ侵入、一般の警察力では治安維持ができない事態が発生し自衛隊へ治安出動命令が下令された想定で実施した。移動間の情報共有及び車列の維持を訓練する「緊急輸送訓練」、武装工作員の発見・鎮圧等を訓練する「共同検問訓練」において事態対処の要領を実動により訓練して練度を向上させました。訓練終了後には活発な意見交換が実施され情報を共有するとともに、今年はオリンピックが開催され、県内でも聖火リレーが行われることからテロ対策の重要性、今後取り組むべき課題について認識の統一を図り、更なる連携強化の必要性を互いに認識しました。



年頭訓練



各部隊で年頭訓練を実施しました。



1 第1ヘリコプター団 2 第7化学防護隊 3 第7施設大隊 4 第7特科連隊 5 第6飛行隊 6 東北方面衛生隊 7 普通科教導連隊 8 第1戦車大隊 9 第10特科連隊 10 第33普通科連隊 11 西部方面総監部 12 第8師団(北熊本駐屯地) 13 中央特殊武器防護隊 14 第1空挺団

即応予備自衛官の任用を目標に (一般公募予備自衛官の新たな教育訓練)



今年度から、自衛官経験のない予備自衛官補(一般)出身の予備自衛官で志願する者に対して、所定の教育訓練を行ない基本特技を取得した者を即応予備自衛官に任用する制度ができました。令和2年度には自衛官経験のない即応予備自衛官第1号が誕生します。
写真は昨年10月~12月に実施された海田市駐屯地での教育訓練実施風景です。今回の教育訓練参加者は全般を通じて、戦闘に必要な知識・技能を習得し、普通科隊員としての練度を向上させました。
なお、本教育訓練により平素の勤務先を離れざるを得なくなったことに対する雇用主の方への理解と協力に対する給付金(即応予備自衛官育成協力企業給付金)制度を新設予定です。

1 戦闘訓練 2 格闘訓練 3 野戦築城 4 武器訓練



防衛協力・交流

Defense Cooperation and Exchange

ジブチ災害対処能力強化支援

陸上自衛隊は、令和元年10月3日(木)から12月16日(月)までの間、ジブチ共和国において、ジブチ軍に対する災害対処能力強化支援を行いました。今年は4回目の事業として、派遣団長 森杉2佐(第5施設群副群長)以下12名を派遣し、約2ヶ月半にわたり、ジブチ軍工兵部隊の要員を対象として、ドーザ、油圧ショベル、グレーダ及びバケットローダの操作教育及び整備教育を行い、ジブチ軍の災害対処能力向上に寄与しました。



1 閉講式における集合写真 2 陸自教官による展示説明 3 グレーダ整備教育 4 訓練終了後の集合写真



国内隊付研修

1月20日(月)から24日(金)までの間、沖縄県に駐屯する米海兵隊下士官学校及び米空軍下士官学校において国内隊付研修を実施し、陸上自衛隊最先任上級曹長、各方面隊混成団・陸曹教育隊等の最先任上級曹長が参加しました。

国内隊付研修では、陸上自衛隊陸曹教育の質的向上のため、学生に対する教授要領・評価要領等についての教官との意見交換、授業の実視などを行い、また、沖縄戦史研修を通じて日米下士官相互の信頼関係強化に寄与しました。

- 1 米海兵隊下士官学校長との懇談
- 2 米海兵隊下士官学校教官との意見交換
- 3 授業実視
- 4 戦史研修



行事

Event

与那国島の活動(与那国駐屯地、沖縄地本石垣出張所)

沖縄地本石垣出張所は、11月8日(金)～10日(日)の間、与那国町において離島募集広報を実施しました。8日～9日は、与那国町に所在する中学校2校に対し、陸自高等工科学校の受験説明を実施するとともに、

志願者宅の訪問により本人及び保護者に対して高等工科学校の制度や学校環境の魅力について説明しました。また、与那国駐屯地は、10日に、与那国町が主催する令和元年度与那国町防災訓練に参加しました。防災訓練において、募集ブースを出展するとともに、ドローン展示及び人命救助システムを使用した人命救助訓練展示、カレーライスの炊き出し訓練、第15音楽隊による音楽演奏及びヘリ体験搭乗を実施し、多くの町民が本訓練に参加され、陸上自衛隊及び与那国駐屯地に対する理解を深めて頂くとともに相互交流を図りました。

次年度も引き続き防災訓練に参加を予定しており更なる相互信頼を深めていきます。



- 1 募集ブースの出展(与那国中学校体育館)
- 2 瓦礫の中からの人命救助(与那国町イベント広場)
- 3 第15音楽隊による演奏(与那国中学校体育館)
- 4 CH-47体験搭乗(与那国イベント広場)

2019年度予備自衛官等制度広報ドラマ

「誇りを胸に、歩み出す一歩」

任期制自衛官を退官後、民間企業に就職した「聖奈」、仕事にも慣れてきた頃、大きな地震が……。だが、自衛官として災害派遣に行くことができず、何もできない自分に虚しさを募らせる。そんな時、即応予備自衛官の「大平」と出会い、即応予備自衛官になる道があるということを知り、早速社長へ相談する聖奈だったが……。

YouTube陸上自衛隊広報チャンネルにて公開中ですので、是非チェックしてみてください。



インフォメーション

Information

陸上自衛隊公式SNSのお知らせ

陸上自衛隊は、SNSを活用して陸上自衛隊の国内外における活動について情報を発信しています。特に、陸上自衛隊Twitterでは陸上自衛隊の『今』を、Instagramでは陸上自衛官しか撮影できない『写真』を中心に確認していただけます。隊員の自主募集への活用やご家族との話の一助となれば幸いです。是非、隊員・ご家族の皆様も登録(フォロー)をお願いいたします。



陸上自衛隊キャラクター タクマ君とユウちゃん

陸上自衛隊の『今』を知るなら

@JGSDF_pr



陸上自衛隊の『写真』を見るなら

@JGSDF_pr

